



進路ニュース

平成29年12月号
藤代高等学校進路指導部



今年も残りわずかとなりました。3年生は推薦入試・AO入試がほぼ終了しました。合格発表も一部の大学を除き大部分の大学で行われ、下記のような結果が出ております。また、一般入試に望む3年生は、いよいよ入試直前の追い込みに入りました。授業中はもちろんのこと、放課後や昼休みにも、教室や蒼藤館などで真剣に勉強に取り組む姿が見られます。ここからが最後の踏ん張りです、本当に頑張った現役受験生は最後の最後まで成績が伸びます。藤代高校では、終盤になって成績を急上昇させ、最後の最後で見事に逆転して合格という先輩が大勢います。そうした藤高の先輩たちの持っていた「伸びしろ」は、今の在校生にも受け継がれているはずです。3年生は、最後の最後まで粘りに粘って頑張って下さい。また、1年生・2年生の諸君は先輩たちの受験勉強の姿を手本に、現在の自分の生活習慣や学習への取り組みをしっかりと見直して、日々研鑽に励んでください。

1 3年生進路状況 <速報>

【受験結果】12月8日現在

学校別	受験別	合格	不合格	結果待ち	合計
大学	推薦入試	49	14	8	71
	AO入試	8	12	2	22
短大	推薦入試	5	0	0	5
	AO入試	2	0	0	2
専門学校	推薦入試	9	0	0	9
	AO入試	6	0	0	6
合計		79	26	10	115



【主な合格大学・短大】12月8日現在

国公立大学	人数
茨城	1
群馬	1
名古屋市立	1

私立大学	人数
立教	2
青山学院	1
中央	1
法政	2
成蹊	1
成城	3
武蔵	2
獨協	6
明治学院	2
順天堂	1

私立大学	人数
日本	4
東洋	1
駒澤	1
大妻女子	1
共立女子	1
昭和女子	1
白百合女子	1
武蔵野	6
文教	2
神田外語	3
川村学園女子	1
国際医療福祉	1
中央学院	1
帝京	1
帝京平成	3

私立大学	人数
東京医療保健	2
東京福祉	1
和洋女子	1

私立短期大学	人数
青山学院女子短大	2
実践女子大短大部	1
淑徳大短大部	1
女子栄養大短大部	1
聖徳大短大部	1
東京家政大短大部	1

【1・2年生のみなさんへ】

上の表にある合格大学はすべて推薦入試・AO入試での合格ですが、推薦入試・AO入試はほとんどが専願です。つまり、合格した場合は必ず入学することが条件の入試です。したがって「第1志望校」であることが受験する上での条件となります。また、試験内容が一般入試とは大きく異なりますので、推薦・AOでの受験を考えている人は、自分の第1志望が固まっているのか、また試験内容が自分に合っているかなども慎重に考慮しなければなりません。次のページの試験内容や小論文の問題例などを参考にしてください。

【推薦入試・ＡＯ入試の選考方法】

推薦入試・ＡＯ入試の一般的な選考方法は、上記の「書類審査」「小論文」「面接」の３種類が基本です。
その他、事前に提出したポートフォリオ（活動記録）を審査するものや大学で講義を聴講し、講義の内容をレポートにまとめ、提出したレポートを審査するといった選考方法もあります。

【志望理由書】

大半の大学で提出を義務づけており、推薦入試・ＡＯ入試では、きわめて重要なものです。また、面接試験では「志望理由書」で書いた内容をもとにかなりつつこんだ質問をされるケースも多いようです。

志望理由書に記載する内容として、最も肝心なのは、その学校に入って「何をやりたいのか」という目的です。「何を勉強したいのか」「どんな活動をしたいのか」「どんなことができるようになりたいのか」さらに「なぜ、それをやりたいのか」という理由、あるいは「それを将来どういかしていくのか」という将来のビジョンを明確に述べるのが志望理由書で最も重要なポイントです。そして、その自分の「やりたいこと」が、他の学部・学科ではなく、その学部・学科を選んだ理由となり、また他の大学ではなく、その大学を選んだ理由にもなり、「なるほど、そういうことをやりたいから君はこの大学、この学科を選んだのだね」と採点者や面接官に納得してもらえるような内容となることが理想的な志望理由書です。

これは何も推薦入試やＡＯ入試に限ったことではなく、一般入試で受験する人にとっても、自分の志望校を決定する上で大変重要なことです。２年生は来年の３月に「第１志望届」「志望理由書」を提出することになります。自分が「やりたいこと」をよく整理して、それを「どこで」やるのがベストであるのか、「第１志望校」の候補となる大学・学部・学科について、この冬休みを利用してもう一度よく調べておきましょう。

【今年の３年生が実際に受験した小論文の問題】

下記の表は、藤高の現３年生が先月に受験した推薦入試・ＡＯ入試で実際に出題された小論文の問題の一部です。このような問題に短期間の付け焼き刃的な取り組みでは、とても対応できません。では、合格点に達する小論文が書けるようになるためには、今後どのような取り組み・対策をすればよいのか・・・まずは自分自身でよく考えてみてください。

課題文や資料等があり、それを読み論述する問題が主流になっています。問題文が英文の大学もあります。今年実際に出題された小論文の課題例は以下の通りです。

日本大学 法学部 時間 60 分 (A4 用紙 1 ページ 約 35 行の日本語を読んで) 次の文章は自由や権利のあり方を論じているものです。下線について考えを 600 字以内で述べなさい。
武蔵大学 経済学部 時間 80 分 (A4 用紙 4 ページ 約 100 行の日本語を読んで) 本論では途上国のスポーツ振興を成熟国家である日本が支えるということが述べられているが、スポーツに限らず一般的に成熟国家が途上国を支援するという姿勢について良いこと悪いことを具体例を提示して 800 字程度で述べなさい。
茨城大学 人文社会科学部 時間 90 分 (B5 用紙 2 ページ 合計約 50 行の英文と表を読んで) 問 1 下線 (1) について、「これらの発見」とはどのようなことだと筆者は述べていますか。本文の記述に即して 200 字以内の日本語でまとめなさい。 問 2 下線 (2) について、「ここに逆説がある」と筆者は指摘していますが、どのような逆説があるのでしょうか。筆者の考えを 100 字以内の日本語でまとめなさい。 問 3 下線 (3) について、「懐疑的な人の反応」とはどのようなものだと言筆者は述べていますか。本文の記述に即して 100 字以内の日本語でまとめなさい。 問 4 下線 (4) について、西洋諸国の幸福度が高まっていないという見方を支持する 2 つの根拠はどのようなもので、それらはどのような方法で得ることができると筆者は述べていますか。筆者の考えを 250 字以内の日本語でまとめなさい。
名古屋市立大学 人文社会学部 現代社会学科 時間 120 分 (図 1 ～ 2 を見て) (1) 図 1 のグラフから読み取れることを 100 字以内で述べなさい。 (2) 図 2 のグラフから読み取れることを 100 字以内で述べなさい。 (3) 上の (1) および (2) で読み取ったことは、高校生のどのような変化を示していると考えられるか。またなぜそのような変化が生じたと考えられるか。あなたの考えを 800 字以内で論じなさい。

2 進路希望調査結果 11月17日（木）調査

進路希望	1年		2年		3年		全体	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
大学	217	90%	202	85%	210	88%	633	88%
短大	4	2%	3	1%	8	3%	15	2%
専門学校	7	3%	19	8%	15	6%	41	6%
就職	0	0%	3	1%	3	1%	6	1%
未定	10	4%	9	4%	2	1%	21	3%
計	242		236		238		716	

平日の家庭学習時間	1年		2年		3年		全体	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
ほとんどやってない	47	19%	75	32%	17	7%	131	18%
30分程度	59	24%	57	24%	11	5%	133	18%
1時間程度	94	39%	71	30%	13	5%	183	26%
2時間程度	36	15%	28	12%	31	13%	98	14%
3時間程度	4	2%	5	2%	53	22%	61	9%
4時間程度	0	0%	0	0%	44	18%	44	6%
5時間程度	0	0%	0	0%	57	24%	57	8%
6時間以上	0	0%	0	0%	12	5%	12	2%
平均学習時間	52分		43分		195分			

1年生・2年生は家庭学習時間を増やしていきましょう。今後の奮起に期待します。



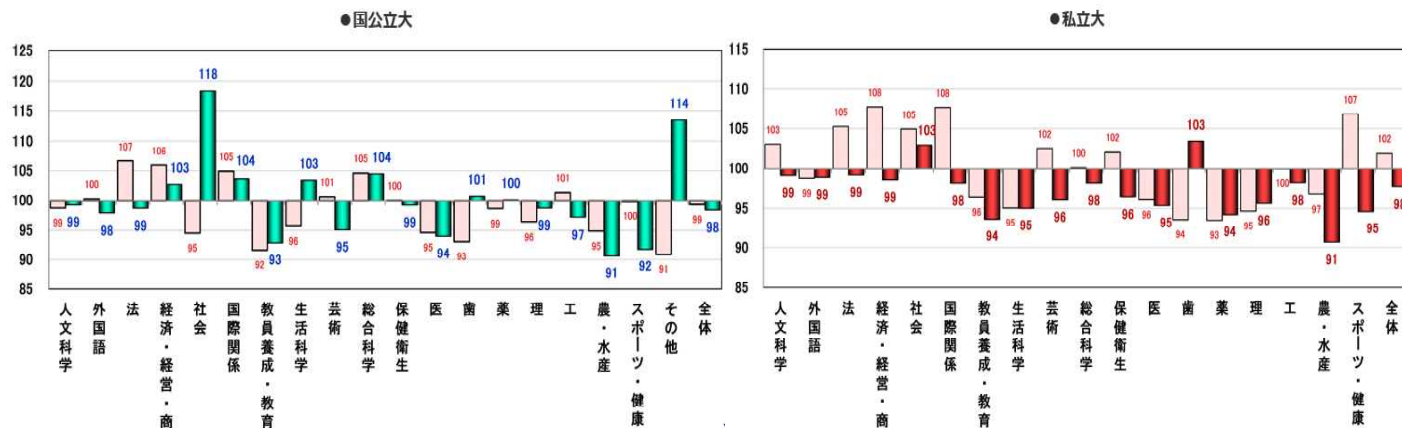
3 出願校の決定は計画的に

今年は「日東駒専」や「大東亜帝国」レベルの大学の難易度の上昇が顕著であると言われています。出願校は保護者や担任の先生とよく相談して決定してください。面談でも担任の先生からアドバイスがあると思いますが、出願校についての基本的な考え方は以下の通りです。

- (1) 国公立志望者は「第1志望国立前期・第2志望国立後期・すべり止め私立」が基本です。「国公立大学は不合格だったけど模試では良い判定をとった」などというのは自慢にもなりません。確実に合格を勝ち取る必要があります。また私大専願者は受験の戦略をよく担任と検討することが大切です。同じ大学の同学部であれば、早い回の入試の方が一般的には合格しやすいです。
- (2) そこでくれぐれも保護者・担任の先生とよく話し合った上で、受験校を決定しましょう。
- (3) 「目標校・志望校・確実校」のバランスを考えましょう。滑り止めは確実に合格する所をなるべく早い時期に受験しましょう。周りの生徒が合格して自分が合格していないと、非常に不安になる人がよく見受けられます。昨年はすべり止めだと思って受験した大学に落ちる生徒が多発していました。くれぐれも確実校は「確実」であること。
- (4) 自分にとって譲れない条件は何かを考えましょう。①自宅から通学しなければならないのかor下宿してもよいのか？②どうしてもある特定の大学に行きたいのかor特定の学部学科で学びたいのか？③絶対国公立大or私大でもよいのか？ etc.
- (5) 第1目標校は志望を下げることなく、最後まで貫き通すこと。最終学歴は一生ついてまわりますので「あの時受験していれば受かったかも」という後悔のないようにしましょう。
- (6) どうしても入りたい私立大学・学部は複数回受けることも可能です。（①センター利用，②一般，③全学統一etc）。大学ごとに出題傾向があるため，同一大学を3回以上受験すると合格率は上がるそうです。
- (7) 入試の体力・コンディションを考えよう。3日連続受験でも大丈夫でしょうか？
- (8) 自分の得意・苦手科目を考え，配点に注意しましょう。
- (9) 先入観に囚われず，他学部にも目を向けましょう。観光学科と地理学科など，意外な学部・学科で似たような研究をしていたりします。またほとんどの大学では他大学や他学部の講義を受講できるような制度があります。
- (10) 合格発表日，手続〆切日を考慮してスケジュールをたてましょう。無駄な入学手数料を支払うことは，できれば避けたいものです。
- (11) 受験シーズンをめいっぱい活用しましょう。2月下旬出願や，中には3月出願などもあります。3月まであきらめずに，少しでも志望順位の高い大学をめざそう。
- (12) 多くの大学で受験料割引制度があります。大学の願書やウェブサイトで確認してみましょう。

4 2018年度入試も「文高理低」継続

このほど駿台予備校から来年度入試（現3年生の入試）の志望動向について、分析結果が発表されました。これは第1回ベネッセ駿台模試の受験者が記載した志望校を集計したもので、特に増加が目立つのは「社会学」「経済・経営・商」「法」などの系統で、他の文系の学部系統も軒並み志望者が増加しています。ここ数年続いている「文高理低」の傾向は来年度入試においても変わらないようです。

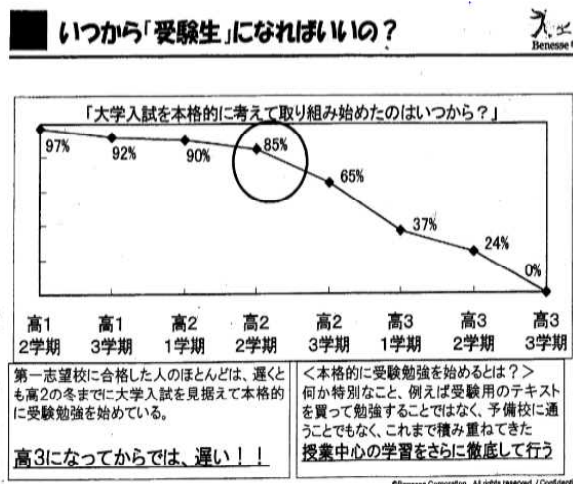
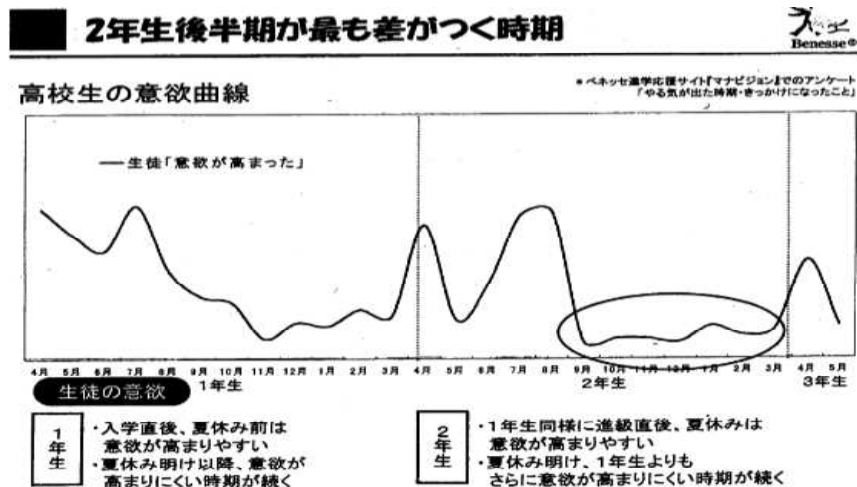


上記で述べたように系統別では国公立大、私立大ともにほぼ同じ志望動向で、2016年度入試から顕著になった文高理低の傾向が継続していますが、文系人気のアップ率は落ち着いてきています。見方を変えれば文系志望者はピーク時の8割程度しかいないのです。また、2015年度入試がピークだった理系志望者はそれ以降減少しており、理系の間口は確実に広がっています。

現役生は入試の当日まで成績の伸びが期待できます。とにかく、自分の入試スケジュールで**最後の日まで絶対にあきらめない**ことが重要です。12月になり、不安な気持ちに押しつぶされそうになることもあるかもしれませんが、それは受験生全員が同じように感じる事なのです。

5 そして2年生の大学受験もすぐそこです

2年生・1年生は受験勉強は3年生になってから始めればいいと思っているかもしれませんが、秋の進路講演会で話が合った通り、もうすでに2年生は受験生になっていなければなりません。**高2の2学期までに受験勉強をスタート**すれば第一志望校に合格する可能性が非常に高くなるのが右図からわかります。一般的には、どの進学校でも「修学旅行から帰ったら受験生だ」と話をしています。それはこういうデータがあるからなのです。



左図のようにライバルのモチベーションが下がっている今の時期に受験を意識し始めればライバルにグッと差をつけることができます。さあ、まだスタートしていない人は今日から始めましょう。

1年生はあと1年で受験生になるのです。その準備として分からない箇所や欠点を克服し、基礎を固めておきましょう。

急に寒くなり、風邪やインフルエンザも流行しています。体調管理に気をつけて、最後まで第一志望を目指してがんばってください。藤代高校進路指導部一同、3年生を応援しています。